

石油備蓄のあり方検討会（第3回）

議事要旨

○日時 令和6年2月15日(木)15:30~17:00

○場所 経済産業省別館2階227会議室

○議題

- (1) 石油備蓄のあり方検討会 中間とりまとめ（案）について
（事務局からの資料説明）
- (2) 自由討議

○議事概要

- ・ 事務局（資源エネルギー庁）から、資料3~4について説明。
- ・ その後、自由討議の形で意見交換。委員、オブザーバーから出された意見等も踏まえ、中間とりまとめの修正は座長に一任し、後日公表することを確認。
なお、自由討議の中での委員、オブザーバーからの主な発言は次の通り。
 - 事務局提示の中間とりまとめ（案）の内容に異存はない。
 - アジア諸国との連携については、緊急時における石油の融通や代替航路の検討等が今後の課題ではないか。
 - 基地の特性を踏まえた役割分担についてはコスト関連の記載は理解しやすいよう表現上の工夫が必要ではないか。
 - 中東有事等の外的要因に対しては備蓄日数の議論をすることが有効。災害等の内的要因の有事については、備蓄日数の議論をするよりも、被災した地域への供給網を強くしていくことが重要なのではないか。
 - 国家備蓄を製油所で使用している原油の性状に近づける油種入替事業については、予算の範囲内で引き続き実施していく必要があるのではないか。
 - コストも重要だが、備蓄基地の機動性がより重要ではないか。「コストが安くて機動性が高い」基地が一番良いが、基地の機動性を分析するにあたっては気象や海象等の更に細かい部分も分析していくことも必要。